

平成29年度 地域ケアプラザ事業実績評価（鶴見区）

施設名	指定管理者名	評価	評価内容
潮田地域 ケアプラザ	(福) 横浜市 社会福祉協議会	A	<p>(全事業共通)</p> <p>○総合相談からの個別課題の積み重ねや地域アセスメントシートを活用し、得られた情報を分析して生活困窮等の個別課題や地域独自の見守り活動の状況を把握したため、地域ケア会議や協議体を通じて課題共有や見守り活動の発展に向けた検討を進めています。今後、課題等を解決するため、さらなる地域への働きかけを期待します。</p> <p>○5地区社協の会長、事務局長が参加する潮田海側ネットワークでは、昨年度までは各地区の活動報告を主として実施していました。今年度は他の地区について情報共有し、内容を深めるために、地区に地域活動をマッピングするグループワークを行った結果、各地区の特色や地域活動が見守りにつながるという理解が進んでいます。今後は出席者を拡大し各地域全体へ派生していくことを期待します。</p> <p>(地域活動交流事業)</p> <p>○シニアボランティアポイント講座では、制度についての説明だけでなく、お菓子づくりを通じた参加者交流会の企画も併せて実施し、ボランティア活動に興味を持ってもらえるように工夫しました。講座参加者が実際に配食ボランティアの活動につながっています。</p> <p>(生活支援体制整備事業)</p> <p>○個別地域ケア会議等で把握した町会独自の見守り活動支援の一環として、協議体の開催や定期的な介護予防活動につなげる等、5職種と区役所の職員が連携しながら業務にあたっています。</p> <p>○住民支え合いマップを活用し、地域課題の抽出や、住民との課題共有が行えました。今後は、住民と共にマップの活用方法を検討するとともに、マップ以外の方法も視野に他自治会への働きかけを継続して行ってください。</p> <p>(地域包括支援センター運営事業)</p> <p>○総合相談台帳を変更したことによって、事務効率が上がり、すべての職員が迅速に相談票を閲覧できるよう書類整理を進めてきました。対応中のケースについては共通のファイルでいつでも共有ができるようにしています。個別ケースに関しては特に三職種間で様々なツールを駆使し情報共有に努めています。</p> <p>○キャラバン・メイト連絡会や、フォローアップ研修会の開催等、エリア内のキャラバンメイト支援を充実させています。また、新たな人材の育成にも積極的に取り組むとともに認知症カフェの立ち上げを支援する等、キャラバン・メイト活動の活性化に尽力しています。</p>
矢向地域 ケアプラザ	(福) 横浜市 福祉サービス協会	A	<p>(全事業共通)</p> <p>○法人として専門職毎の育成計画があり、月に1度専門職の会議を開催して、専任職から指導を受けられる機会があり、メールでのサポートを得られる体制が取れている。</p> <p>(地域活動交流事業)</p> <p>○事業参加者がどの地区から参加しているかが分かるよう地区別分布資料を独自で作成し、参加者の傾向分析を行うことで、出張講座等の企画に活かしている。</p> <p>○稼働率の低い夜間の時間帯には、ヨガ等の自主事業を行い、夜間利用率の向上につながった。</p>

			<p>(生活支援体制整備事業)</p> <p>○所内会議等において生活支援について共有するとともに、取組など5職種で参加しており、連携がとれている。通所型サービスBの申請にあたって社協と協力しながら、調整、支援を行っている。</p> <p>○配食ボランティアの利用者増を検討するため協議体を設置し、課題解決に取り組むことが出来た。また、老人クラブや病院、大型マンション等、地域に出向いて支援を行い、必要に応じて情報共有の機会を設けることができた。</p> <p>(地域包括支援センター運営事業)</p> <p>○身寄りのない方に、「とっちーホルダー」を持ってもらい、緊急連絡先等の登録を行うように支援を進めている。病院から介護保険申請に関しての連絡が入ることも増えており、医療機関との連携もできている。</p> <p>○認知症サポーター養成講座を中学生やその家族、友愛活動員を対象に開催した。「とっちーホルダー」については、実際に認知症の方の発見につながった事があり、見守りツールのひとつとして、地域に浸透してきている。</p> <p>○毎月、「とちのき包括だより」を発行し、これを各事業所に配達し、ケアマネジャーとその場で日頃の相談や調整を行い顔の見える関係づくりをすすめている。ケアマネジャーに対して丁寧な相談支援や研修会を行うことが出来ている。</p>
<p>寺尾地域 ケアプラザ</p>	<p>(福) 横浜市 社会福祉協議会</p>	<p>A</p>	<p>(全事業共通)</p> <p>○獅子ヶ谷エリアの2事業所(特養、小規模多機能)から利用者だけでなく、地域の人向けに事業を行って地域貢献したいという話があったため、町会長や民生委員を交えた話し合いの場を設けた。その結果、特養では、外に出ない人をターゲットにしたサロン、小規模多機能では日曜日にデイサービスを開放して、器具を使用した健康体操の実施につながった。</p> <p>○ケアプラザが即時勧告対象区域の避難所となっており、今年度2回対応があったが、区や町会と連携して適切に対応することができた。</p> <p>(地域活動交流事業)</p> <p>○別所自治会の「買い物を考える会」において他区で行われている地域主体の実践事例を収集して、神奈川区の出張販売や港北区の送迎バスについて情報提供を行った。その結果、自治会として出張販売を実施したいという動きが出てきた。</p> <p>(生活支援体制整備事業)</p> <p>○買い物支援等の、地域の課題に応じた協議の場が昨年度から引き続き行われているほか、別の地域でも新たに協議の場が持たれている。また、取組を立ち上げ実施するだけでなく、振り返りを行い、改善についても話し合いが行うことができた。</p> <p>○老人クラブへのヒアリング及びアンケートの実施により地域の課題を抽出し、また分析までつなげることができた。ヒアリング、アンケートを活かし、地域活動の活性化につながることが期待される。</p> <p>(地域包括支援センター運営事業)</p> <p>○キャラバン・メイト連絡会では、養成講座の事前打合せや振り返り等について、年間計画を立てて実施することができている。また、エリア内に2か所ある認知症カフェについては、プログラムの提案を行う等、開催の支援をしている。</p> <p>○地域ケアプラザから離れている地域で会場を確保し、介護予防事業をすすめることが出来た。また、活動している人の中から指導者</p>

			を育てるための働きかけも行われている。
東寺尾地域 ケアプラザ	(福) 若竹大寿会	A	<p>(全事業共通)</p> <p>○地区社協の役員が新しくなったことから、地区社協研修と併せて地区フォーラムを開催するよう、企画の段階から支援を行い、年に2回も開催することができた。「見守り」、「子育て」をテーマに子育てサロンの活動団体等にも発表の場を提供し、13 町会が参加する等、ネットワーク作りを支援した。</p> <p>(地域活動交流事業)</p> <p>○社会問題となっている「ひきこもり」に着目し、関係機関と協力して年に2回講演会を開催した。</p> <p>○29年3月の町別世帯別5歳人口の図を掲示して、地域課題の共有を図った。また、自治会PR用紙を作成し、掲示した。</p> <p>(生活支援体制整備事業)</p> <p>○商店街で配達サービス等個別支援について聞き取りを行い、実施できる担い手が少ないと把握できている。次年度以降も他町会にある商店街などで聞き取りを行い、サービスリストへの反映や課題解決に向けた働きかけをお願いします。</p> <p>(地域包括支援センター運営事業)</p> <p>○高齢者虐待相談では実態調査の後に複数職員で緊急性を判断し、区役所と情報共有を行うなど、初動体制がとられ、早期対応が出来た。次年度以降は地域包括支援センター内部でのアセスメントをより深め、支援の充実化をお願いします。</p> <p>○認知症サポーター養成講座を小学生や老人会向けに開催し、普及啓発に努められている。また、新しい取組として、見守りチャレンジを開催し、SOYLINKの導入を予定している。職員が企業に出向き研修を受ける等、導入に向けての準備が進められている。</p> <p>○地域ケア会議は医療機関の他、民間企業や有識者にも出席を募り、活発な意見交換を行えている。テーマについてはその都度相談が上がったケースを個別レベル・包括レベルに振り分けて実施している。次年度も地域の課題を取り上げながら、計画に沿った実施をお願いします。</p>
駒岡地域 ケアプラザ	(福) 横浜鶴声会	A	<p>(全事業共通)</p> <p>○「あいねっとの会」にて「見守り」特に「災害時要援護者支援」をテーマに話し合いを進めた。各町会を個々に訪問して説明し、情報共有方式への理解を広げ、地区全体での導入を推進した。共同事務局として、地域とのパイプ役をしっかりと果たした。</p> <p>(地域活動交流事業)</p> <p>○子育て支援団体との共催により、初めて幼稚園ガイダンスを開催し、25組51名の参加があった。</p> <p>(生活支援体制整備事業)</p> <p>○自治会町内会の見守り活動については、勉強会を開催するなど積極的に支援できている。また、マンションにおける高齢化の課題や集会場利用については、協議体を通してアンケートを実施し、具体的な活動につながるよう取り組んでいた。</p> <p>(地域包括支援センター運営事業)</p> <p>○対応件数も多くその中でケース概要が複雑なものが見られ、支援していく中で後見制度の必要性があるとアセスメントができている。また、相談・制度利用を検討するケースが増えているが、訪問や聞き取りなどを迅速な対応が出来ている。</p> <p>○虐待ケースについては、早期の対応や関係機関との連携が適切にできていました。今後は単館での研修の開催やエリア町会での普及啓発事業などを検討してください。</p>

			<p>○鶴見警察協力の下、高齢者安全運転講習会を開催し、サロンや認知症カフェの後方支援を実施。地域のグループ活動の把握や支援に努めている。引き続き地域で活動している認知症カフェ等の動向や見守りをお願いします。</p>
鶴見市場地域 ケアプラザ	(福) 大樹	A	<p>(全事業共通) ○障害制度について基幹相談支援センターから助言を得るなど、連携して相談対応をしており、介護と障害の問題を抱えているケースがあり、精神疾患が多い傾向にある。 ○こども家庭支援課や子育て支援拠点と連携して1歳会のサークル立ち上げを行い、自主化に至った。</p> <p>(地域活動交流事業) ○コミュニティハウスと共催している学習支援事業では、ボランティアが定着し運営が安定しており、中学校の先生とも連携し、生徒の情報等を共有しながら実施した。今後は自主化に向けて支援をする。 ○子育て支援会議「カフェコメット」で障害者施設のクッキーやパンの物品販売を行い、自然な交流につながった。また、障害児余暇支援事業「つるみサマーフレンド」で行った縁日遊びにコメットの親子や保育園児に参加してもらうなどつながりがうまれた。</p> <p>(生活支援体制整備事業) ○データを活用して地域の特徴を話す等、地域での説明に役立てるため、町別の高齢化率、要介護認定率を調べ、課題を抽出し、その分析を進めることができた。</p> <p>(地域包括支援センター運営事業) ○相談ケースが増加している。近隣病院からの連絡も多く入るようになっていたので、これからも連絡調整をすすめ、適切な対応をお願いします。相談内容に応じて必要な情報（地域資源、介護予防事業等）を提供し、協力体制をとりながらそれぞれに合った関係機関や制度、事業等につなげる取り組みを今後も引き続きお願いします。 ○認知症カフェのボランティア等に周知を行った結果3名のキャラバン・メイトが誕生した。3月には、キャラバン・メイト連絡会を予定している。また、高校での認知症サポーター養成講座は継続実施をしている。今後は、キャラバン・メイトと連携した活動に期待します。</p>
鶴見中央地域 ケアプラザ	(福) 横浜 YMCA福祉会	A	<p>(全事業共通) ○こども分野においては、区役所、区社協、保育士、ボランティアで「さくらんぼの会」を結成しており、毎月（乳）幼児向けのイベントを開催して80人～90人（各回）の参加がある。</p> <p>(地域活動交流事業) ○父親向けの講座を開催し、その参加者が「パパの会」を立ち上げ、自主化につなげることができた。 ○ケアプラザでの定期的な利用が難しい団体には、エリア内の近隣施設と連携して場の提供の支援を行った。</p> <p>(生活支援体制整備事業) ○区包括連絡会の前半を生活整備事業の会議の時間として確保することで、区・区社協を交えたより円滑な情報共有を図ることが出来た。また、サロン活動では、生活支援コーディネーターが積極的に参加をすることで保健活動推進委員との顔つなぎを行うことが出来た。</p> <p>(地域包括支援センター運営事業) ○キャラバン・メイト連絡会を開催し、民生委員、自治会長、保健</p>

			<p>活動推進委員との連携につなげることが出来た。来年度以降も継続した取り組みをお願いします。地域ケア会議より立ち上がった認知症カフェについては安定した定期開催実現に向け、今後も引き続き支援をお願いします。</p> <p>○計画・テーマ選定を踏まえ、リハビリテーション活動支援事業を活用し、個別レベル、包括レベルと段階を経た効果的な地域ケア会議の実施が出来た。また、抽出された課題に対して協議体において話し合いができた。3月の包括レベル地域ケア会議や次年度以降の継続した対応にも期待します。</p>
生麦地域 ケアプラザ	(福) 横浜 YMCA福祉会	A	<p>(全事業共通)</p> <p>○小学生向けのパン教室の焼き時間に車椅子のミニ講座や認知症サポーター養成講座を行うなど、交流と包括が連携して事業を実施した。</p> <p>○夏休み・冬休みにこどもの宿題を見守る学びの場にポッチャ等の遊びの要素を加えたイベントを、保育園や地域と連携して会の運営や情報共有を行うことで、子育て世代以外の協力も得られ、つながりが拡大した。</p> <p>(地域活動交流事業)</p> <p>○障害児の余暇支援を目的に行っていた自主事業参加者のニーズに応じて、地域ケアプラザが協力して、悩みや情報を共有できる場となる個別支援級保護者の会を立ち上げることができた。</p> <p>(生活支援体制整備事業)</p> <p>○5職種と話し合いの場を持ち、情報を共有している。また、地域には5職種で出た対応し、専門的な分野については、それぞれの職種に引き継いでいる。自発的に活動する住民が多いことから、今後は既存の活動の活性化、横の連携等について、引き続き検討してください。</p> <p>(地域包括支援センター運営事業)</p> <p>○今年度は個別ケア会議から互いに協力体制を進めたいとのニーズから、定期的な打ち合わせの機会を作り、民生員と友愛委員の連携の強化に努めた。今後は居場所づくりの重要性の啓発を目的とした「たまり場フェスティバル」の開催も予定されている。</p> <p>○地域のアセスメントより今年度から始まった「ニコニコおたっしやクラブ」は、日々の活動の中から住民に伝えるべきテーマを見つけ、効果的な講座を定期開催しており、参加希望者が増加している。</p> <p>○ケアマネジャーと民生委員、病院職員、介護事業職員との合同連絡会の開催にあたっては、事前に民児協にてニーズを拾い、テーマを決め当日は民生委員とケアマネジャーが事例発表を実施。有意義な会となった。</p>
馬場地域 ケアプラザ	(福) 秀峰会	A	<p>(全事業共通)</p> <p>○あいねっとの推進について、地域との調整はケアプラザと区社協が積極的に行った。地区懇談会で出た意見を拾い上げて「声かけ応援隊」を実現するために具体的な支援を行った。</p> <p>(地域活動交流事業)</p> <p>○地域からの要望で企画した障害の理解講座を2回実施し、民生以外の地域の方も参加した。中には初めてケアプラザを訪れた人もいた。</p> <p>○初めてボランティアをする人向けに参加しやすい内容として、先輩ボランティアからやりがい等について話してもらおうボランティア講座を企画し、20名の参加があった。また、ケアプラザで募集しているボランティア活動の紹介も行った。</p> <p>(生活支援体制整備事業)</p>

		<p>○各町内会で協議体を設置し、それぞれ課題解決に向けた取組が進めることが出来た。支えあいマップなどによる地域での見守りについての検討や、移動販売等による買い物支援の取組等が広がってきている。</p> <p>○独自で作成した買い物支援サービスリストを地域のケアマネジャーに渡すなど、活用することができている。民生委員の会議等でも情報提供をしている。</p> <p>(地域包括支援センター運営事業)</p> <p>○ショッピングモールを中心とした地域ケアプラザやコミュニティセンターと協働で終活講座を開催。また、消費者被害防止に落語を取り入れた講座を行うなど、工夫をこらした啓発活動をすすめてきた。</p> <p>○居宅介護支援事業所の横のつながりの強化、スキルアップ等を目的に勉強会、事例検討会、連絡会を開催した。また、居宅介護支援事業者や介護サービス事業所と調整を進め、地域の見守りネットワークの体制整備を行った。</p> <p>○買い物支援等のインフォーマルサービスの情報提供をケアマネジャーに行い、好評を得た。また、新たに生活支援ボランティアグループを立ち上げることが出来た。</p>
--	--	---